

人工関節

病院の 実力

大分編

病気に別に関節治療のどの治療実績を伝える「病院の実力」。「人工関節」手術は、加齢に伴う関節の痛みや関節リウマチの痛みに対して行われる。くらし健康面には年間90件以上、大分版では50件以上の施設を一覧にした。

「専門医と相談を」

中津市宮夫の川島整形外科病院は、県北地域の専門医療機関として知られ、2007年は98件、1982年以降では約1000件の手術を行った。

日本整形外科学会の認定専門医で同病院診療部長の永芳郁文医師(46)は「関節痛の治療は人工関節手術以外にもたくさん選択肢がある。専門医とじっくり話し合ってほしい」と話す。

歩けなくなるほどの膝や股関節などの痛みを取り除くのに、大きな効果が期待できる人工関節手術だが、感染症につながる恐れがあるなどの留意点も多い。

川島整形外科病院 永芳郁文医師



「専門医とじっくり話し合ってほしい」と話す永芳医師

同病院では、関節内の骨の変形や壊死が進んだ患者に対し、最後の選択肢として手術を提案している。手術に踏み切った場合、整形外科医8人とリハビリテーション科のスタッフ22人が連携してチーム医療を実践している。手術の直後から理学療法士などのスタッフがつき、足先を動かすなどのリハビリが始まる。数日後には、つえを使った

歩行訓練が始まり、患者の多くは3週間ほどで退院するという。

「人工関節は、治療の終わりではなく、別の治療の始まりだと思してほしい」と永芳医師。定期健診はもちろん、交換のための再手術が必要になるケースもある。医療機関とは息の長い付き合いになるだけに、病院選びには慎重を期したい。

手術受けた末百合子さん

趣味の旅行楽しむ



中津市牛神町の末百合子さん(77)は、歩けないほどの膝の痛みに悩まされ、2005年7月に左膝、07年2月には右膝に人工関節を入れた。

きっかけは04年夏ごろ。朝食のため、いすに座ろうとした際、バランスを崩

師と相談のうえ、人工関節手術に踏み切った。

手術は約1時間半ほどで完了。直後から簡単な足の曲げ伸ばしを始め、3日後には、つえを使えば階段の上り下りができるまでになった。

最初の手術は大事をとって約1か月入院したが、右膝は20日間で退院できた。今も、右膝に多少の違和感はあるが、痛みはほとんどなく、近場ならつえなしで歩くことができる。

病院には月1回、定期健診に通うのみ。かかとをつけたまま、足に力を入れて膝周辺の筋力を鍛えるトレニングなど、日々のケアも任されている。

07年10月には金沢市の兼六園に出かけ、一日かけて歩いて回った。同12月には、友人が大阪市で開いた油絵の個展を見に行くなど、趣味の旅行を存分に楽しんでいる。さすがに遠出をするときは、つえを持って行くが、「使わないからお店に忘れることもありました」と笑う。